



友垣よ

練馬区立石神井西中学校だより
令和六年九月十一日 第六号(第十七号)
校長 井上 貴 推

あなたならどうする？

夏休みが終わり、十日ほど経ちました。先週末は修学旅行で、三年生諸君とは2泊3日京都・奈良に行ってきました。とても落ち着いた態度で、最高の修学旅行にしようという全員の実感が伝わってくる3日間でした。これからは、一人一人自己実現に向け、個々が頑張る日々となりますが、これまで以上に保護者、地域の皆さまとともに、一、二年生も含め、生徒たちのために取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、これからの先が予測できない時代に求められる力として「問題解決能力」が大事だと言われて久しいですが、そもそも「問題解決」ってどういうことなのか…考えてみました。

1 自分だったら、どうする？

一昔前まで、大学入試といえば、大量の問題に大量の解答用紙が定番でした。いかに多くの知識を持っているか。いかに素早く提示された問題を解き、たくさんの問題に正確に回答できるか…が問われました。ところが、最近は入学者選抜の方法も多様化され、出題の傾向も変わってきました。多く出題されている問題の傾向が「あなたならどうする？」です。それは言ってみれば、「正解のない問い」です。例えば、ある大学では「コロナ禍で最初の緊急事態宣言が発令された令和2年4月に戻れるとしたら、解決したいと考える問題は何か」というような問題が出題されたそうです。逆にこの問題であれば、中学生の皆さんでも解答は可能なのではないのでしょうか。これからの世の中で求められる力は知識の量や問題を解く力ではありません。自分も持っているものを活用し、考えて、新しい課題への向き合い方を構築する…そんな力なのです。

2 「問題解決」ってどういうことなのでしょう

そもそも問題解決とは、どのように行っていくものなのでしょうか。【問題解決の手順】は、①現状を正確に理解する。↓②課題の原因を分析し突きとめる。↓③対応策・方策を検討し、仮説を立てる。↓④対応策を実行する。…こんな順番に行っていくものだと思います。

さて、先ほどの大学入試問題に戻ります。みんなそれぞれコロナ禍を経験してきました。この経験を生かし、「あなたが解決したい問題は何か」という問いです。皆さんなら、どのように答えるでしょうか。決まった正解はありません。一見、何を答えてもいいのではないかとも思えます。では、なぜこれが大学の入試問題として成立するのでしょうか。

3 「考える」ことを当たり前にする

先ほど示した【問題解決の手順】を振り返ってください。当たり前のことを言っているようですが、この①〜④までを、一つ一つを着実にやることは意外と難しいものです。それが自分の関心のない事柄だったり、あまり好きではない分野の内容だったりしたらなおさらです。私たちは、こういう場合、②と③を飛ばしてしまいがちなのです。例えば、「ある運動部で試合に負けた」という現状に対して、「次の試合に勝つために必死に練習しよう」と進んでしまうことがあります。しかし、これでは何ができなかったから負けたのかという分析(②)や、どうしたら確実に相手を上回ることができるのかという仮説(③)が立てられていません。「もっと練習時間を長くする!」と張り切って練習しても、負けた原因は時間の長短ではなく、練習のやり方かもしれないからです。

皆さんがこれからの学習で大切なのは、この【問題解決の手順】の②と③である分析したり、仮説を立てたりということを繰り返して、「考える」ことを常に行う姿勢を身に付けることです。そのような「考える」プロセスをしっかり身に付けているかどうかを、大学は問うているのではないのでしょうか。…二学期の授業、がんばってください!